

胃がん

1	DOC40+S-1(DS)	26	sLV5FU2
2	CapeOX	27	mFOLFOX6/オプジーボ
3	CapeOX(アレルギー)	28	mFOLFOX6(アレルギー)/オプジーボ
4	CapeOX/オプジーボ	29	sLV5FU2/オプジーボ
5	CapeOX(アレルギー)/オプジーボ	30	mFOLFOX/ビロイ(初回)
6	カペシタビン/オプジーボ	31	mFOLFOX/ビロイ(2回目以降)
7	CapeOX/キイトルーダ	32	sLV5FU2/ビロイ
8	CapeOX(アレルギー)/キイトルーダ	33	FP+トラスツズマブ(初回)
9	カペシタビン/キイトルーダ	34	FP+トラスツズマブ(2回目以降)
10	CapeOX/ビロイ(初回)	35	XP+トラスツズマブ(初回)
11	CapeOX/ビロイ(2回目以降)	36	XP+トラスツズマブ(2回目以降)
12	カペシタビン/ビロイ	37	トラスツズマブ/カペシタビン
13	G-SOX100	38	MTX+5FU
14	G-SOX100アレルギー	39	PAC+サイラムザ
15	G-SOX130	40	w-nabPAC
16	G-SOX130アレルギー	41	w-nabPAC+サイラムザ
17	G-SOX130/オプジーボ	42	エンハーツ
18	G-SOX130(アレルギー)/オプジーボ	43	サイラムザ
19	S-1/オプジーボ	44	イリノテカン/サイラムザbi weekly
20	SOX130/トラスツズマブ(初回)		
21	SOX130/トラスツズマブ(2回目以降)		
22	SOX130(アレルギー)/トラスツズマブ		
23	S-1/トラスツズマブ		
24	mFOLFOX6		
25	mFOLFOX6(アレルギー)		

化学療法計画書

2024年5月 作成

治療法名	ドセタキセル/S-1		
コース数	2	コース目	
腫瘍種	胃がん Ⅲ期(術後)		
氏名	名前を入力	♂	年齢
患者ID	IDを入力	生年月日	
部署	指示部署を	主治医	科 Dr
治療内容	Day	1 2 3 4 5 6 7 8 15 22 . . . 29 .	
	予定日	1/0	1/7 1/14 1/21
ドセタキセル	40 mg/m ²	↓	
エスワン	80 mg/m ²	→	
グラニセトロン	1 mg	↓	
デキサート	6.6mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日		治療間隔	3週毎 予定コース数 2-7 コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.40 m ²

開始予定日

開始予定日	
-------	--

治療内容	Day	1 2 3 4 5 6 7 8 15 22 . . . 29 .	
	予定日	1/0	1/7 1/14 1/21
ドセタキセル	40 mg/m ²	↓	
エスワン	80 mg/m ²	→	
グラニセトロン	1 mg	↓	
デキサート	6.6mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日		治療間隔	3週毎 予定コース数 2-7 コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.40 m ²

Day 1

投与開始基準

- 好中球>2000
- AST/ALT<2xULN, T-Bil<1.5 (肝転移による上昇除く)
- G2以上の非血液毒性がない
- PS 0-1. PS 2は十分注意
- AST/ALT>1.5xULNかつALP>2.5xULN, またはT.Bil>1.2 →減量考慮

次コースからの減量基準

- WBC<1000、好中球<500
- Plt<5万
- 発熱性好中球減少
- 悪心嘔吐、脱毛除くG3以上の非血液毒性

エスワンの投与量

BSA	<1.25	20mg	4錠/分2
(m ²)	1.25-1.5	25mg	4錠/分2
	1.5<	20mg	6錠/分2

エスワン減量基準	120mg→100mg→80mg
ドセタキセル減量基準	5mg/m ² ずつ2段階まで

エスワンの同一クール内での休薬が8日以上
→次コースとして再開

1) グラニセトロン	1mg	30分
デキサート	6.6mg	

2) 5%ブドウ糖	250mL	60分
ドセタキセル	56mg	

3) 生理食塩液	50mL	全開
----------	------	----

* 投与開始時まず5mL早送りし、10分間は50mL/hとして
ベッドサイドで嚴重にアレルギー症状を觀察
問題なければ250mL/hへ

- 1コース目はエスワンのみ (2投1休) 8コース目以降、エスワンのみ (4投2休)
- エスワンは day 1 タから内服
- デカドロン錠は day 2 朝から内服

化学療法計画書

2024年5月 作成

治療法名	S-1/オブジーボ				
コース数		コース目			
治療法コード	胃がん(切除不能/進行再発)				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日	年	月	日
	部署	主治医	科		Dr
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/	1/21
オブジーボ	360 mg	↓			
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
治療開始日		治療	間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
オブジーボ	360mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

day 1(夕食後開始) ~day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	G-SOX130/オプジーボ				
コース数		コース目			
治療法コード	胃がん(切除不能/進行再発)				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日	年	月	日
	部署	主治医	科	Dr	
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/	1/21
オプジーボ	360 mg	↓			
エルプラット	130 mg/m ²	↓			
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日	治療	間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

インラインフィルターを使用 Day1

- 1) 生理食塩液 50mL 血管確保
↓
- 2) 生理食塩液 50mL
オプジーボ 360mg 30分
↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ
↓
- 4) パロノセトロン 0.75mg 30分
↓
- 5) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg 2h
エルプラット 180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓
- 6) 生理食塩液 50mL フラッシュ

投与開始基準

- ・白血球 ≥ 3000
- ・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
- ・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
- ・Cr < 1.5
- ・下痢、口内炎 ≤ G1
- ・神経障害 ≤ G2

S-1クール内休薬基準

- ・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
- ・AST/ALT ≥ 100
- ・Cr ≥ ULN × 1.5
- ・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準

- ・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
- ・Cr < ULN × 1.5
- ・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)

Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

エルプラット減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 75000
またはday22に75000以上100000未満の場合
- ・FN

S-1減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 50000
- ・FN
- ・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名		G-SOX130/オプジーボ (アレルギー)			
コース数		コース目			
治療法コード		胃がん (切除不能/進行再発)			
患者氏名				♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月 日
	部署	主治医		科	Dr
治療内容		Day 1 8 15 22			
治療予定日		1/0 / / / 1/21			
オプジーボ 360 mg		↓			
エルプラット 130 mg/m ²		↓			
エスワン 60 mg/回		→(朝・夕食後)			
デキサート 13.2mg		↓ (6.6mg × 2回)			
パロノセトロン 0.75mg		↓			
ファモチジン 1A		↓			
デカドロン 8mg		↓↓↓			
レスタミン 5錠		↓			
治療開始日	治療 間隔		3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

インラインフィルターを使用 Day1

- 1) 生理食塩液 50mL 血管確保
↓
- 2) 生理食塩液 50mL
オプジーボ 360mg 30分
↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ
↓
- 4) パロノセトロン 0.75mg
デキサート 6.6mg
ファモチジン 1A 30分
4) 開始と共にレスタミン内服
↓
- 5) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg
エルプラット 180mg 2h
↓ (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
- 6) 生理食塩液 50mL フラッシュ

投与開始基準

- ・白血球 ≥ 3000
- ・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
- ・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
- ・Cr < 1.5
- ・下痢、口内炎 ≤ G1
- ・神経障害 ≤ G2

S-1クール内休業基準

- ・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
- ・AST/ALT ≥ 100
- ・Cr ≥ ULN × 1.5
- ・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準

- ・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
- ・Cr < ULN × 1.5
- ・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)

Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量

BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

エルプラット減量基準

0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

エルプラット減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 75000
またはday22に75000以上100000未満の場合
- ・FN

S-1減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 50000
- ・FN
- ・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

2024年5月 作成

治療法名	カペシタビン/オプジーボ				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん (切除不能/進行再発)				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日	年	月	日
	部署	主治医	科 Dr		
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/	1/21
オプジーボ	360 mg	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
オプジーボ	360mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1
5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2
7. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	600mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	900mg
2. 11m ² 以上	1500mg
	1200mg

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目;減量1段階 3回目;減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目;減量2段階で再開

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	カペシタビン/キイトルーダ				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん (切除不能/進行再発)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日	年	月	日
部署		主治医	科 Dr		
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/	1/21
キイトルーダ	200 mg	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
キイトルーダ	200mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1
5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2
7. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	600mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	900mg
2. 11m ² 以上	1500mg
	1200mg

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目;減量1段階 3回目;減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目;減量2段階で再開

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名		CapeOX/キイトルーダ					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃がん (切除不能/進行再発)					
患者氏名						♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日		年 月 日			
	部署	主治医		科		Dr	
治療内容		Day 1		8		15	
治療予定日		1/0		/		1/21	
キイトルーダ		200 mg		↓			
エルプラット		130 mg/m ²		↓			
カペシタビン		2000 mg/m ²		→		(朝・夕食後)	
デキサート		6.6mg		↓			
パロノセトロン		0.75mg		↓			
デカドロン		8mg		↓↓↓			
ピリドキサル		60mg		→		(朝・夕食後)	
治療開始日		治療間隔		3週毎		予定コース	
身長		150 cm		体重		50 kg	
eGFR		79 mL/min		BSA		1.4 m ²	
		eGFR/BSA				64 mL/min	

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
キイトルーダ	200mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
5) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
エルプラット	180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1
5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2
7. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

エルプラット減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒エルプラット100/m ² に減量
(2回目発現時: 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2.11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	CapeOX/キイトルーダ（アレルギー）				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん（切除不能/進行再発）				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日	年	月	日
	部署	主治医	科		Dr
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/	1/21
キイトルーダ	200 mg	↓			
エルプラット	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg × 2回)			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
ファモチジン	1A	↓ ↓ ↓			
デカドロン	8mg				
レスタミン	5錠				
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
キイトルーダ	360mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン	0.75mg 30分
デキサート	6.6mg
ファモチジン	1A
4) 開始と共にレスタミン内服	
↓	
5) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
エルプラット	180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1
5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2
7. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

エルプラット減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒エルプラット100/m ² に減量
(2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目; 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	1800mg 1500mg
2. 11m ² 以上	2100mg 1800mg

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		CapeOX/オブジーボ					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃がん (切除不能/進行再発)					
患者氏名						♂	年齢
開始予定日		患者ID		生年月日		年 月 日	
治療内容		部署		主治医		科 Dr	
Day		1		8		15	
治療予定日		1/0		/		1/21	
オブジーボ 360 mg		↓					
エルブラット 130 mg/m ²		↓					
カペシタビン 2000 mg/m ²		→ (朝・夕食後)					
デキサート 6.6mg		↓					
パロノセトロン 0.75mg		↓					
デカドロン 8mg		↓↓↓					
ピリドキサル 60mg		→ (朝・夕食後)					
治療開始日		治療間隔		3週毎		予定コース	
身長 150 cm		体重 50 kg		BSA 1.4m ²		コース	
eGFR 79 mL/min		eGFR/BSA		64 mL/min			

インラインフィルターを使用 Day1

- 1) 生理食塩液 50mL 血管確保
- ↓
- 2) 生理食塩液 50mL
オブジーボ 360mg 30分
- ↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ
- ↓
- 4) パロノセトロン 0.75mg 30分
- ↓
- 5) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg 2h
エルブラット 180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
- ↓
- 6) 生理食塩液 50mL フラッシュ

投与開始基準	
1. 好中球1,500以上	2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者	4. P S 0-1
5. AST/ALT<100	6. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)	

エルブラット減量基準	
1. 好中球 500未満	2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒エルブラット100/m ² に減量 (2回目発現時: 85mg/m ² に減量)	

カペシタビンの休薬・減量基準	
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開	
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目: 減量2段階で再開	

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg 1200mg
2. 11m ² 以上	1200mg

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		CapeOX/オブジーボ (アレルギー)					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃がん (切除不能/進行再発)					
患者氏名						♂	年齢
開始予定日		患者ID		生年月日		年 月 日	
治療内容		部署		主治医		科 Dr	
Day		1		8		15	
治療予定日		1/0		/		1/21	
オブジーボ		360 mg		↓			
エルプラット		130 mg/m ²		↓			
カペシタビン		2000 mg/m ²		→ (朝・夕食後)			
デキサート		13.2mg		↓ (6.6mg × 2回)			
パロノセトロン		0.75mg		↓			
ファモチジン		1A		↓ ↓ ↓			
デカドロン		8mg					
レスタミン		5錠					
ピリドキサル		60mg		→		(朝・夕食後)	
治療開始日				治療間隔		3週毎 予定コース	
身長		150 cm		体重		50 kg	
eGFR		79 mL/min		BSA		1.4 m ²	
		eGFR/BSA				64 mL/min	

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
オブジーボ	360mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン	0.75mg 30分
デキサート	6.6mg
ファモチジン	1A
4) 開始と共にレスタミン内服	
↓	
5) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
エルプラット	180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. PS 0-1
5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2
7. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

エルプラット減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒エルプラット100/m ² に減量
(2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目; 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2.11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

2024年5月 作成

治療法名		sLV5FU2/オプジーボ					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃がん（切除不能/進行再発）					
患者氏名						♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月	日	
	部署	主治医		科			Dr
治療内容		Day 1		8		15	
		予定日		1/0		/ 1/14	
オプジーボ		240 mg		↓			
レボホリナート		200 mg/m ²		↓			
5-FU		400 mg/m ²		↓			
5-FU		2400 mg/m ²		↓			
グラニセトロン		1mg		↓			
治療開始日		年	月	日	治療 間隔	2週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4	m ²	コース
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/mi n				

Day1-2		
インラインフィルターを使用		
1) 生理食塩液	50mL	血管確保
↓		
2) 生理食塩液	50mL	30分
オプジーボ	240mg	
↓		
3) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
↓		
4) グラニセトロン	1mg	30分
↓		
5) 5%ブドウ糖	500mL	2h
レボホリナート	280mg	
↓		
6) 生理食塩液	50mL	15分
5-FU	560mg	
↓		
7) 生理食塩液	140mL	46h持続（トレフューザー使用）
5-FU	3360mg	

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT<2.5×ULN
4. T-Bil<1.5×ULN
5. Cr:1.2未満

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量

化学療法計画書

2024年5月 作成

治療法名		s LV5FU2					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃がん					
患者氏名				♂	年齢		
開始予定日		患者ID		生年月日		年	月 日
		部署		主治医		科	Dr
治療内容		Day 1		8		15	
		予定日		1/0		/	
レボホリナート		200 mg/m ²		↓			
5-FU		400 mg/m ²		↓			
5-FU		2400 mg/m ²		↓			
グラニセトロン		1mg		↓			
治療開始日		年	月	日	治療 間隔	2週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4	m ²	コース
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/mi n				

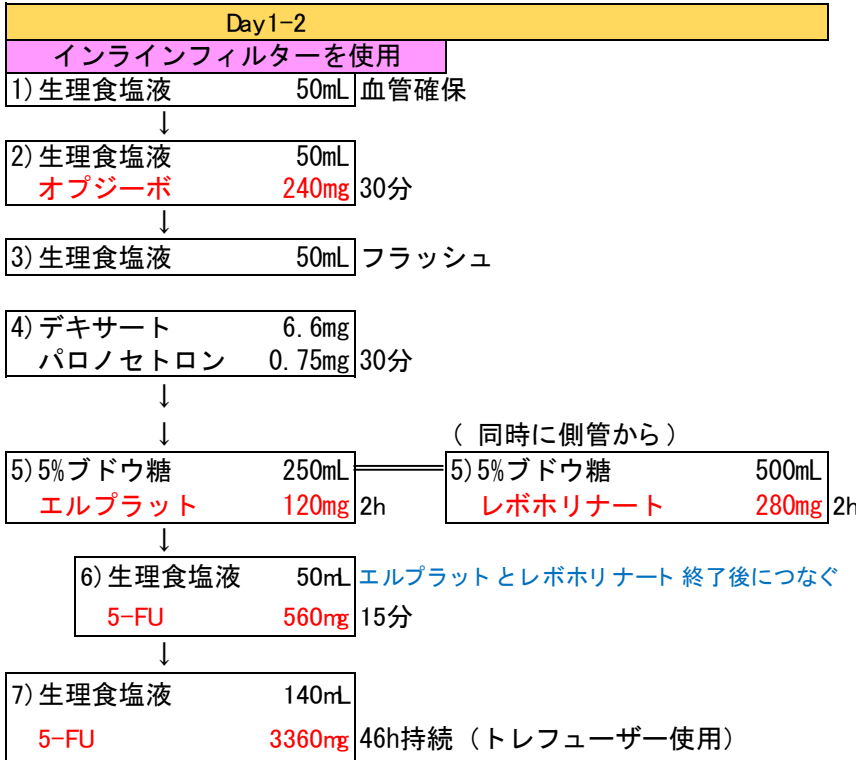
Day1-2		
1) グラニセトロン	1mg	30分
↓		
2) 5%ブドウ糖	500mL	
レボホリナート	280ng	2h
↓		
3) 生理食塩液	50mL	
5-FU	560ng	15分
↓		
4) 生理食塩液	140mL	
5-FU	3360ng	46h持続(トレフューザー使用)

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板10万以上
3. 肝・腎機能値 2倍以下
4. 心・肺機能異常なし
減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量する

化学療法計画書

2024年6月改訂

治療法名		mFOLFOX6/オプジーボ			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん（切除不能/進行再発）				
患者氏名				♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月 日
	部署	主治医		科 Dr	
治療内容	Day	1 8 15			
	予定日	1/0 /		1/14	
オプジーボ	240 mg	↓			
レボホリナート	200 mg/m ²	↓			
5-FU	400 mg/m ²	↓			
5-FU	2400 mg/m ²	↓			
エルプラット	85 mg/m ²	↓			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日	年 月 日	治療 間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/m ²		



投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr; 1.2未満

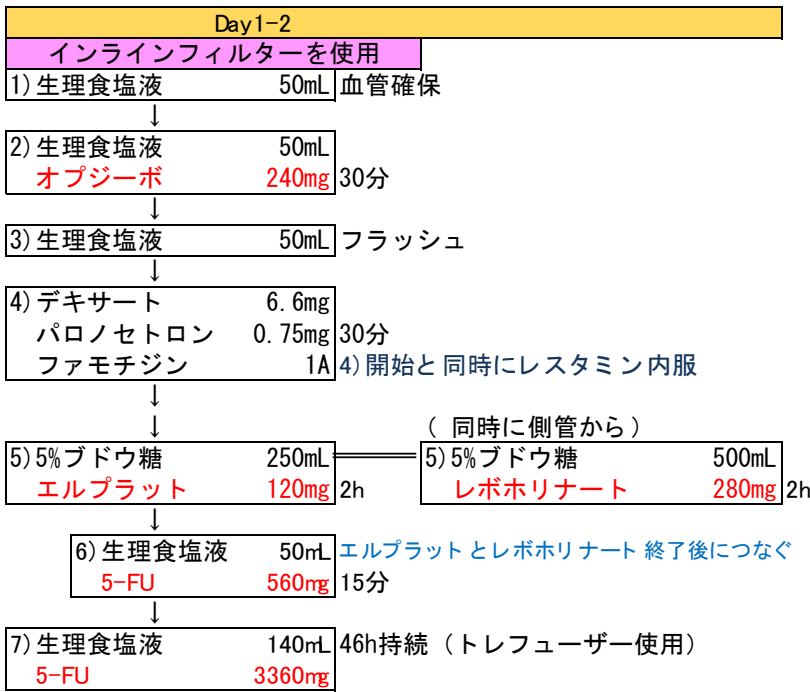
減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量
エルプラット65/m ² に減量

デカドロンはday2の朝から内服

化学療法計画書

2024年6月改訂

治療法名		mFOLFOX6/オプジーボ(アレルギー)						
コース数		コース目						
腫瘍種	胃がん(切除不能/進行再発)							
患者氏名					♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月	日		
	部署	主治医		科			Dr	
治療内容	Day	1 8		15				
	予定日	1/0 /		1/14				
オプジーボ	240 mg	↓						
レボホリナート	200 mg/m ²	↓						
5-FU	400 mg/m ²	↓						
5-FU	2400 mg/m ²	↓						
エルプラット	85 mg/m ²	↓						
デキサート	6.6mg	↓						
パロノセトロン	0.75mg	↓						
デカドロン	8mg	↓↓↓						
レスタミン	5錠	↓						
ファモチジン	1A	↓						
治療開始日	年	月	日	治療	間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4	m ²		
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/m ² n					



投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr; 1.2未満

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量
エルプラット65/m ² に減量

* デカドロン錠はday2の朝から内服

化学療法計画書

治療法名		エンハーツ			
コース数				コース目	
腫瘍種		胃がん (HER2陽性)			
患者名				♀	年齢
開始予定日		患者ID		生年月日	
治療内容		部署		主治医	科
					Dr
Day		1 8 15		22 29	
予定日		1/0		1/7	1/14
エンハーツ		6.4 mg/kg		↓	
パロノセトロン		0.75mg		↓	
デキサート		6.6mg		↓	
デカドロン		8mg		↓↓↓	
治療開始日				治療間隔	3週毎
身長		150 cm	体重	50 kg	BSA
eGFR		60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/min	1.40 m ²
				予定コース数	コース

Day 1		
インラインフィルターを使用		
1) パロノセトロン	0.75mg	30分
デキサート	6.6mg	
↓		
2) 5%ブドウ糖	100mL	・ 1Vの溶解は水5mL
エンハーツ	320mg	・ 調製後遮光カバー装着
↓		
インフュージョンリアクションに注意		
初回90分 2回目以降 初回の忍容性良好なら30分で		
↓		
3) 生理食塩液	50mL	フラッシュ

休薬・中止基準 (好中球)	
G3	G2まで休薬 回復後1段階減量または同一用量で再開
G4	G2以下まで休薬 回復後1段階減量で再開
休薬・中止基準 (発熱好中球減少症)	
	回復するまで休薬 回復後1段階減量で
休薬・中止基準 (血小板)	
G3	G1以下まで休薬 7日以内に回復は同一用量で 7日を超えて回復した場合は1段階減量で
G4	G1以下に回復後1段階減量して再開

減量の目安	
通常	6.4mg/kg
1段階減量	5.4mg/kg
2段階減量	4.4mg/kg
3段階減量	投与中止

心機能モニタリング (心エコー等) 4サイクル毎
デカドロンはday2の朝から

★間質性肺炎に留意 (CT 問診 酸素飽和度 など)

投与開始基準 (選択基準)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ LVEF50%以上 ・ 好中球数 ≥ 1500 血小板数 ≥ 10万 ・ Hb ≥ 9.0, Ccr ≥ 30, T-Bil ≤ 1.5 × ULN ・ AST/ALT ≤ 3.0 × ULN 	
休薬・中止基準 (間質性肺炎)	
G1	原則として再開しない 全ての所見が消失、かつ有益性が危険性を上回ると判断した場合のみ1段階減量して使用することは可能 再発時は中止
G2以上	中止
休薬・中止基準 (LVEF)	
40% ≤ LVEF ≤ 45%	ベースから10%未満低下 → 休薬、3週間以内に再測定を行う ベースから10%以上低下 → 休薬、3週間以内に再測定を行う 絶対値の変化 < 10%に回復しない場合中止
LVEF < 40%	→ 休薬、3週間以内に再測定を行う LVEF < 40%の場合中止
症候性うっ血心不全 → 中止	
休薬・中止基準 (T-Bil) (AST/ALT)	
G2	G1以下まで休薬 7日以内に回復は同一用量で 7日を超えて回復した場合は1段階減量で
G3	G1以下まで休薬 7日以内に回復は1段階減量で 7日を超えて回復した場合は投与中止
G4	中止
休薬・中止基準 (下痢)	
G3	G1以下まで休薬 3日以内に回復は同一用量で 3日を超えて回復した場合は1段階減量で
G4	中止

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	CapeOX+ビロイ				
コース数	1	コース目			
腫瘍種	胃がん (CLDN18.2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日	年	月	日
部署		主治医	科 Dr		
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
治療予定日	1/0 / /				
ビロイ	800 mg/m ²	↓			
エルプラット	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	16.5mg	↓			
ポララミン	1 A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1 A	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓↓			
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1

1) アセリオ	400mg	
ポララミン	1 A	
デキサート	9.9mg	
ファモチジン	1 A	15分

2) パロノセトロン	0.75mg	
アロカリス	235mg	30分

3) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

4) 生理食塩液	500mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL)
ビロイ	1120mg	
投与速度 : 75mL/hで1時間→100mL/hで1時間→150mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了		
悪心/嘔吐, インフュージョンリアクション生じた時は主治医と相談		

5) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

6) 5%ブドウ糖	250mL	2 h
デキサート	6.6mg	
エルプラット	182mg	
(温罨法) 穿刺部位の十分な観察		

7) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
----------	------	-------

投与開始基準

HER2陰性
1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上
3. Hb ≥ 9 4. PS : 0-1
5. ALB ≥ 2.5 6. T-Bil ≤ ULN × 1.5 (肝転移 ≤ ULN × 3.0)
7. AST/ALT ≤ ULN × 2.5 (肝転移 ≤ ULN × 5) 8. CCr ≤ 30
9. PT/INR及びPTT ≤ ULN × 1.5
カペシタビン (CCr < 30未達は禁忌, 30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)

エルプラット減量基準

1. 好中球500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒エルプラット100mg/m ² に減量 (2回目発現時 ; 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準

・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目 ; 減量1段階 3回目 ; 減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目 ; 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	1200mg

オランザピンはday0の夕から
カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	CapeOX+ビロイ				
コース数		コース目	(2回目以降)		
腫瘍種	胃がん (CLDN18.2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日	年	月	日
部署		主治医	科	Dr	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0 / / /			
ビロイ	600 mg/m ²	↓			
エルプラット	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	↓	→ (朝・夕食後)		
デキサート	16.5mg	↓			
ポララミン	1 A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1 A	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg	↓	→ (朝・夕食後)		
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1

1) アセリオ	400mg	15分
ポララミン	1 A	
デキサート	9.9mg	
ファモチジン	1 A	

2) パロノセトロン	0.75mg	30分
アロカリス	235mg	

3) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

4) 生理食塩液	500mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL)
ビロイ	840mg	

投与速度：100mL/hで1時間→150mL/hで1時間
→200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了
悪心・嘔吐、インフュージョンリアクション生じた時は
主治医と相談

5) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

6) 5%ブドウ糖	250mL	2h (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
デキサート	6.6mg	
エルプラット	182mg	

7) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
----------	------	-------

投与開始基準

- HER2陰性
- 好中球1,500以上
 - 血小板10万以上
 - Hb ≥ 9
 - PS : 0-1
 - ALB ≥ ULN × 2.5
 - T-Bil ≤ ULN × 1.5 (肝転移 ≤ ULN × 3.0)
 - AST/ALT ≤ ULN × 2.5 (肝転移 ≤ ULN × 5)
 - CCr ≤ 30
 - PT/INR及びPTT ≤ ULN × 1.5
- カペシタビン (CCr < 30は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)

エルプラット減量基準

- 好中球500未満
- 血小板5万未満
- G3以上の有害事象⇒エルプラット100mg/m²に減量 (2回目発現時; 85mg/m²に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準

- G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開
- G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目; 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	

オランザピンはday0の夕から
カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	カペシタビン+ビロイ				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん (CLDN18. 2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日	年	月	日
部署		主治医	科		Dr
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
治療予定日	1/0 / /				
ビロイ	600 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	9. 9mg	↓			
ポララミン	1 A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1 A	↓			
パロノセトロン	0. 75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1. 4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1

1) アセリオ	400mg	15分
ポララミン	1 A	
デキサート	9. 9mg	
ファモチジン	1 A	

↓

2) パロノセトロン	0. 75mg	30分
アロカリス	235mg	

↓

3) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

↓

4) 生理食塩液	500mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL)
ビロイ	840mg	投与速度 : 100mL/hで1時間→150mL/hで1時間

↓

→200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了
悪心嘔吐、インフュージョンリアクション生じた時は
主治医と相談

↓

5) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
----------	------	-------

投与開始基準

HER2陰性
1. 好中球1, 500以上 2. 血小板10万以上
3. Hb≥9 4. PS : 0-1
5. ALB≥ULN×2. 5 6. T-Bil≤ULN×1. 5 (肝転移≤ULN×3. 0)
7. AST/ALT≤ULN×2. 5 (肝転移≤ULN×5) 8. CCr ≤30
9. PT/INR及びPTT≤ULN×1. 5
カペシタビン (CCr<30は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

カペシタビンの休薬・減量基準

・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目;減量1段階 3回目;減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目;減量2段階で再開

カペシタビン 投与量

体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)

カペシタビン減量時投与量

体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg	600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg	900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満		
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	1500mg	1200mg
2. 11m ² 以上		

オランザピンはday0の夕から
カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		CapeOX					
コース数		コース目					
腫瘍種		大腸がん/胃がん					
患者氏名				♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月	日	
	部署	主治医		科			Dr
治療内容	Day	1 8 15 22					
	治療予定日	1/0 / /					
エルプラット	130 mg/m ²	↓					
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)					
デキサート	6.6mg	↓					
パロノセトロン	0.75mg	↓					
デカドロン	8mg	↓↓↓					
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)					
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース		
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²		
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min				

Day1

- 1) パロノセトロン 0.75mg 30分
↓
- 2) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg 2h
エルプラット 180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ

カペシタビン 投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)	
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)	
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)	
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン 減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m ² 未満	900mg	600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満		
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg	1200mg
2.11m ² 以上		

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上 3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1 5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2 7. Cr<1.5×ULN カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

エルプラット減量基準
1. 好中球 500未満 2. 血小板5万未満 3. G3以上の有害事象⇒エルプラット100/m ² に減量 (2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開 ・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目; 減量2段階で再開

化学療法計画書

治療法名	CapeOX (アレルギー)		
コース数		コース目	
腫瘍種	大腸がん/胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr
開始予定日	Day 1 8 15 22		
治療内容	Day	1 8 15 22	
	治療予定日	1/0 / /	
オサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)	
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg×2)	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
ファモチジン	1A	↓	
レスタミン	5錠	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min

Day1	
1) パロノセトロン 0.75mg デキサート 6.6mg ファモチジン 1A	30分 1) 開始と共にレスタミン内服
↓	
2) 5%ブドウ糖 250mL デキサート 6.6mg エルプラット 180mg	2h (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
3) 生理食塩液 50mL	フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球 1,500以上 2. 血小板 7.5万以上 3. 脳転移のない患者 4. P S 0-1 5. AST/ALT < 100 6. T-Bil < 2 7. Cr < 1.5 × ULN カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)

エルプラット減量基準
1. 好中球 500未満 2. 血小板 5万未満 3. G3以上の有害事象 ⇒ エルプラット 100/m ² に減量 (2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン 減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	1500mg 1200mg
2. 11m ² 以上	1500mg 1200mg

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開 ・ G3の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 → 減量1段階で再開 2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン、ピリドキサルはday1の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		G-SOX			
コース数		コース目			
治療法コード		胃がん			
患者氏名				♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日		年	月 日
	部署	主治医		科	Dr
治療内容		Day 1 8 15 22			
治療予定日		1/0 / / /			
エルプラット 100 mg/m ²		→(朝・夕食後)			
エスワン 60 mg/回					
デキサート 6.6mg		↓			
パロノセトロン 0.75mg		↓			
デカドロン 8mg		↓↓↓			
治療開始日		治療 間隔		3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day1		
1)パロノセトロン	0.75mg	30分
↓		
2) 5%ブドウ糖	250mL	
デキサート	6.6mg	2h
エルプラット	140mg	(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓		
3)生理食塩液	50mL	フラッシュ
day 1(夕食後開始) ~day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

エルプラット減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	G-SOX (アレルギー)		
コース数	コース目		
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day 1 8 15 22
------	---

治療予定日	1/0 / /
エルプラット 100 mg/m ²	↓
エスワン 60 mg/回	→ (朝・夕食後)
デキサート 13.2mg	↓ (6.6mg × 2)
パロノセトロン 0.75mg	↓
デカドロン 8mg	↓↓↓
ファモチジン 1A	↓
レスタミン 5錠	↓

治療開始日	治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長 150 cm	体重 50 kg	BSA 1.4 m ²		
eGFR 79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day1		
1) パロノセトロン 0.75mg	30分	1) 開始と共にレスタミン内服
デキサート 6.6mg		
ファモチジン 1A		
↓		
2) 5%ブドウ糖 250mL		(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
デキサート 6.6mg	2h	
エルプラット 140mg		
↓		
3) 生理食塩液 50mL	フラッシュ	

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Pit ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Pit < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Pit ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1 (夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1	BSA (m ²)	
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

エルプラット減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	SOX130/トラスツズマブ		
コース数	1	コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/				
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓						
エルプラット	130 mg/m ²	↓						
エスワン	60 mg/回							(朝・夕食後)
デキサート	6.6mg	↓						
パロノセトロン	0.75mg	↓						
デカドロン	8mg	↓↓↓						

治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	250mL
トラスツズマブ	400mg 90分
↓	
3) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
4) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
エルプラット	180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
5) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
	(20)	6錠/分2	>1.5
	(25)	4錠/分2	1.25-1.5
	(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

エルプラット減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	SOX130/トラスツズマブ		
コース数		コース目 (2コース目以降)	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	...	8	...	15	...	22
	治療予定日	1/0		/		/		
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓						
エルプラット	130 mg/m ²	↓						
エスワン	60 mg/回							→(朝・夕食後)
デキサート	6.6mg	↓						
パロノセトロン	0.75mg	↓						
デカドロン	8mg	↓↓↓						
治療開始日				治療 間隔	3週毎	予定コース		コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²			
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA			64 mL/min			

Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	250mL
トラスツズマブ	300mg 30分
↓	
3) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
4) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
エルプラット	180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
5) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> HER2過剰発現あり LVEF50%以上
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から

S-1は当日夕から

心機能測定は12週間に1回を目安

エルプラット減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	SOX130/HER (アレルギー)		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	...	8	...	15	...	22
	治療予定日	1/0		/		/		
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓						
エルプラット	130 mg/m ²	↓						
エスワン	60 mg/回							→(朝・夕食後)
デキサート	13.2 mg	↓						
パロノセトロン	0.75mg	↓						
ファモチジン	1A							
デカドロン	8mg	↓↓↓						
レスタミン	50mg	↓						
治療開始日				治療 間隔	3週毎	予定コース		コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²			
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA			64 mL/min			

Day1		
1) 生理食塩液	50mL	血管確保
↓		
2) 生理食塩液	250mL	インフュージョンリアクション に注意
トラスツズマブ	300mg	
↓		
3) パロノセトロン	0.75mg	30分
デキサート	6.6mg	
ファモチジン	1A	3) 開始と共にレスタミン内服
↓		
4) 5%ブドウ糖	250mL	
デキサート	6.6mg	
エルプラット	180mg	2h
↓		
5) 生理食塩液	50mL	(温罌法) 穿刺部位の十分な観察 フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2 HER2過剰発現あり LVEF50%以上
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

エルプラット減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名	トラスツズマブ/S-1		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr
開始予定日			
治療内容	Day	1 8 15 22	
	治療予定日	1/0	/ /
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓	
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min

Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	250mL
トラスツズマブ	300mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

day 1(夕食後開始) ~day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
	(20)	6錠/分2 >1.5
	(25)	4錠/分2 1.25-1.5
	(20)	4錠/分2 <1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2 LVEF50%以上
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1は当日夕から
心機能測定は12週間に1回を目安

化学療法計画書

治療法名	G-SOX 130				
コース数		コース目			
治療法コード	胃がん				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日	年	月	日
部署		主治医	科		Dr
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0	/	/	
エルプラット	130 mg/m ²	↓			
エスワン	60 mg/回		→(朝・夕食後)		
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day1		
1) パロノセトロン	0.75mg	30分
↓		
2) 5%ブドウ糖	250mL	
デキサート	6.6mg	2h
エルプラット	180mg	(温罌法) 穿刺部位の十分な観察
↓		
3) 生理食塩液	50mL	フラッシュ

day 1(夕食後開始) ~day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

エルプラット減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	G-SOX130(アレルギー)		
コース数		コース目	
治療法コード	胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr

開始予定日

治療内容	Day 1 8 15 22
治療予定日	1/0 / /
エルプラット 130 mg/m ² エスワン 60 mg/回	↓ →(朝・夕食後)
デキサート 13.2mg パロノセトロン 0.75mg デカドロン 8mg ファモチジン 1A レスタミン 5錠	↓ (6.6mg×2) ↓ ↓↓↓
治療開始日	治療 間隔 3週毎 予定コース
身長 150 cm 体重 50 kg BSA 1.4 m ²	コース
eGFR 79 mL/min eGFR/BSA 64 mL/min	

Day1	
1) パロノセトロン 0.75mg 30分 デキサート 6.6mg ファモチジン 1A	1) 開始と共にレスタミン内服
↓	
2) 5%ブドウ糖 250mL デキサート 6.6mg 2h エルプラット 180mg	(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
3) 生理食塩液 50mL	フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

day 1(夕食後開始) ~ day15 (朝食後まで)		
Rp) エスワン		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
エルプラット減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

エルプラット減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはday22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはday22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはday2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	アブラキサン		
コース数		コース目	
腫瘍種	非小細胞肺癌 胃がん		
患者名		♂	年齢
患者ID	生年月日		
部署		主治医	

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	15	22	29
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
アブラキサン	100 mg/m ²	↓							↓		↓				↓	
治療開始日					治療間隔			4 週毎	予定コース数			コース				
身長	160	cm	体重	40.1	kg	BSA	1.32		m ²							
eGFR	79	mL/min	eGFR/BSA	60		mL/min										

投与開始基準 (day1)
好中球 ≥ 1500
Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0
AST/ALT ≤ ULN × 2.5
T-Bil ≤ 1.5、Cr ≤ 1.5
(T-Bil 高値の場合減量考慮)
末梢神経障害 ≤ G2

・末梢神経障害 ≥ G3 →アブラキサンのみ1段階減量

減量目安	アブラキサン
通常量	100mg/m ²
1段階減量	80mg/m ²
2段階減量	60mg/m ²

Day 1、8、15

投与可否の基準 (Day 8、15)
・好中球 ≥ 1000
・Plt > 50,000
・末梢神経障害 ≤ G2

インラインフィルターを使用しない	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL 30分
アブラキサン	130mg 液量は (mg ÷ 5) mL
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

アブラキサンの調製方法
生食50mLのボトルを空にする
抜いた生食はアブラキサンの溶解に用いる
1V=100mgを生食20mLで溶解し、
5mg/mL溶液とする
そこから必要量をとって、
空になった生食ボトルに戻す

化学療法計画書

治療法名		アブラキサン/サイラムザ					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃がん					
患者名				♂	年齢		
患者ID				生年月日			
部署				主治医	科	Dr	
開始予定日							
治療内容		Day 1 8 15 22 29					
予定日		1/0		1/7		1/14	
アブラキサン		100 mg/m ²		↓		↓	
サイラムザ		8 mg/kg		↓		↓	
レスタミン		5錠		↓		↓	
治療開始日				治療間隔	4週毎	予定コース数	コース
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40 m ²
eGFR	79	mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min			

投与開始基準
好中球 ≥ 1500
Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0
AST/ALT ≤ ULN × 2.5
T-Bil ≤ 1.5、Cr ≤ 1.5
(T-Bil高値の場合減量考慮)
末梢神経障害 ≤ G2

投与可否基準 (Day8、15)
・好中球 ≥ 1000
・Plt > 50,000
・末梢神経障害 ≤ G2
サイラムザの投与基準
尿蛋白：100mg/dl以下
サイラムザの有害事象G2未満

サイラムザの投与基準
尿蛋白：100mg/dl以下
サイラムザの有害事象G2未満

Day 8	
インラインフィルターを使用しない	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL 30分
アブラキサン	140mg 液量は (mg ÷ 5) mL
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

Day 1、15	
インラインフィルター使用	
1) 生理食塩液	50mL 30分
↓	
2) 生理食塩液	250mL 1回目は60分
サイラムザ	400mg 忍容性あれば
↓	
(全量250mL)	
3) 生理食塩液	50mL 全開で
↓	
4) 生理食塩液	50mL ルート確保
↓	
インラインフィルターを使用しない	
5) 生理食塩液	50mL 30分
アブラキサン	140mg 液量は (mg ÷ 5) mL
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

インフュージョンリアクション出現時
⇒一旦中止
G1、2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮
G3、4は再投与しない

尿蛋白
100mg/dl以下でRAM投与
300mg/dl中止
減量 8→6→5mg/kg
高血圧

G3未満	無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始 症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧薬継続 コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg 更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3	無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続 2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止 2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

・末梢神経障害 ≥ G3
→アブラキサンのみ1段階減量

減量基準	アブラキサン
通常量	100mg/m ²
1段階減量	80mg/m ²
2段階減量	60mg/m ²

アブラキサンの調製方法
生食50mLのボトルを空にする
抜いた生食はアブラキサンの溶解に用いる
1V=100mgを生食20mLで溶解し、
5mg/mL溶液とする
そこから必要量をとって、
空になった生食ボトルに戻す

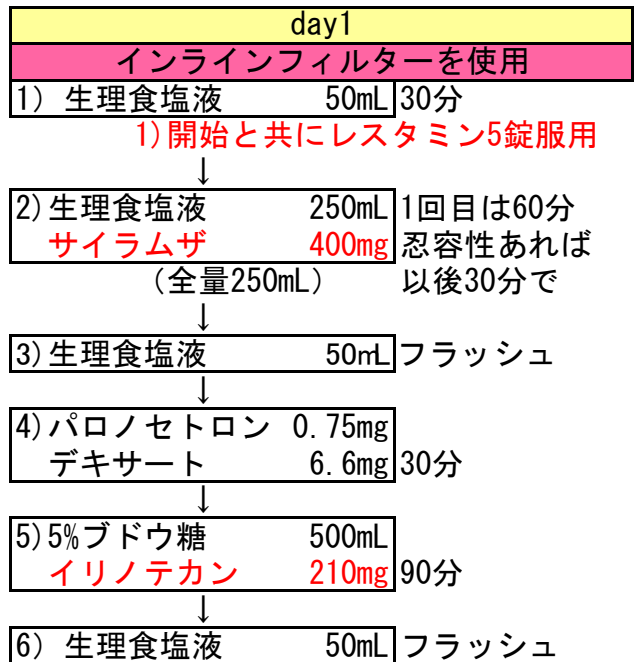
化学療法計画書

治療法名	イリノテカン/サイラムザbiweekly															
コース数		コース目														
腫瘍種	胃がん															
患者名		♂	年齢													
患者ID		生年月日														
部署		主治医	科	Dr												
開始予定日																
治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	15	22	29
	予定日	1/0						1/7				1/14		1/28		
イリノテカン	150 mg/m ²	↓														
サイラムザ	8 mg/kg	↓														
パロノセトロン	0.75mg	↓														
デキサート	6.6mg	↓														
デカドロン	8mg	↓↓↓														
レスタミン	5錠	↓														
治療開始日		治療間隔			予定コース数		コース									
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²											
eGFR	50 mL/min	eGFR/BSA	40 mL/min													

投与開始基準 (IRI)
<ul style="list-style-type: none"> ・ WBC>3000, かつ好中球>2000 ・ Plt>10万 ・ 下痢なし ・ 肝・腎機能値 2 倍以下 ・ T-Bil ≥ 2.1 禁忌or (減量考慮50%量)

インフュージョンリアクション出現時 (RAM)
⇒一旦中止
G1, 2の場合は対症療法, 減速も考慮
G3, 4 は再投与しない
尿蛋白
100mg/dl以下でRAM投与
300mg/dl中止
減量 8→6→5mg/kg

高血圧
G3未満
無症候性の場合⇒RAM継続で降圧剤開始
症状あり⇒症状消失までRAM中断で降圧薬継続
コントロール不良でRAMを2回中断するとき6mg/kg
更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3
無症状⇒強力な降圧剤を併用しRAM継続
2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、RAM中止
2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg



デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名		サイラムザ				
コース数		コース目				
腫瘍種		胃がん				
患者名				♂	年齢	
開始予定日		患者ID		生年月日		
		部署		主治医	科	Dr
治療内容	Day	1 8 15 22 29				
	予定日	1/0		1/7	1/14	1/21 1/28
サイラムザ	8 mg/kg	↓			↓	↓
レスタミン	5錠	↓			↓	↓
治療開始日		治療間隔			予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m2	
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min			

開始基準 好中球 ≥ 1000 血小板 ≥ 75000 尿蛋白 : 100mg/以下 サイラムザの有害事象G2未満
--

Day 1、15
インラインフィルターを使用

- | | | | |
|----------|-------|---------|----------------------------|
| 1) 生理食塩液 | 50mL | 30分 | 1) 開始と共にレスタミン5錠服用 |
| ↓ | | | |
| 2) 生理食塩液 | 250mL | 1回目は60分 | 忍容性あれば
(全量250mL) 以後30分で |
| サイラムザ | 400mg | | |
| ↓ | | | |
| 3) 生理食塩液 | 50mL | フラッシュ | |

インフュージョンリアクション出現時 ⇒一旦中止 G1, 2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮 G3, 4 は再投与しない

尿蛋白 100mg/dl以下でRAM投与 300mg/dl中止 減量 8→6→5mg/kg

高血圧 G3未満 無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始 症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧薬継続 コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg 更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3 無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続 2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止 2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

化学療法計画書

2024年5月改訂

治療法名	パクリタキセル/サイラムザ			
コース数		コース目		
腫瘍	胃がん			
患者		♂	年齢	
ID	生年月日			
部署		主治医	科	Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	8	15	22	29
	予定日	1/0	1/7	1/14	1/21	1/28
パクリタキセル	80 mg/m ²	↓	↓	↓		↓
サイラムザ	8 mg/kg	↓		↓		↓
ファモチジン	1A	↓	↓	↓		↓
デキサート	1A	↓	↓	↓		↓
ポララミン	50mg	↓	↓	↓		↓
治療開始日			治療間隔	4週毎	予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²	

投与開始基準 (day1)
・好中球>1500
・T-Bil ≤ULN×1.5
・AST/ALT ≤ULN×3 (肝転移×5)
・Cr ≤ULN×1.5またはCCr ≥50
・神経毒性G2以下
・他のG2以上の非血液毒性なし
サイラムザの投与基準
尿蛋白 : 100mg/dl 以下
サイラムザの有害事象G2未満

投与可否基準 (day8, 15)
・好中球>1000
・Plt>75,000
・AST/ALT ≤ULN×3 (肝転移×5)
・T-Bil ≤ULN×1.5
・神経毒性G2以下
・他のG2以上の非血液毒性なし
サイラムザの投与基準
尿蛋白 : 100mg/dl 以下
サイラムザの有害事象G2未満

Day 1・15	
インラインフィルターを使用	
1) 生理食塩液 50mL 15分	
ファモチジン 1A	
デキサート 6.6mg	1) 開始と共に
	↓
	2) ポララミン 1A
	静注
3) 生理食塩液 100mL 30分	
	↓
4) 生理食塩液 250mL 1回目は60分	
サイラムザ 400mg	忍容性あれば
(全量250mL)	以後30分で
5) 生理食塩液 50mL 全開で	
	↓
6) 5%ブドウ糖 250mL	アレルギーに注意
パクリタキセル 112mg	60分
	↓
7) 生理食塩液 50mL	フラッシュ

Day 8	
インラインフィルターを使用	
1) 生理食塩液 50mL 15分	
ファモチジン 1A	
デキサート 6.6mg	1) 開始と共に
	↓
	2) ポララミン 1A
	静注
3) 生理食塩液 100mL 30分	
	↓
4) 5%ブドウ糖 250mL	アレルギーに注意
パクリタキセル 112mg	60分
	↓
5) 生理食塩液 50mL	フラッシュ

パクリタキセル減量基準
G4の血液毒性またはG3の非血液毒性
⇒次コースからPTX10mg/m ² 減量
毒性が続くまたは再発 更に10mg/m ² 減量
60mg/m ² 未満に減量する必要がでたとき
中止

インフュージョンリアクション出現時
⇒一旦中止
G1, 2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮
G3, 4 は再投与しない
尿蛋白
100mg/dl 以下でRAM投与
300mg/dl 中止
減量 8→6→5mg/kg

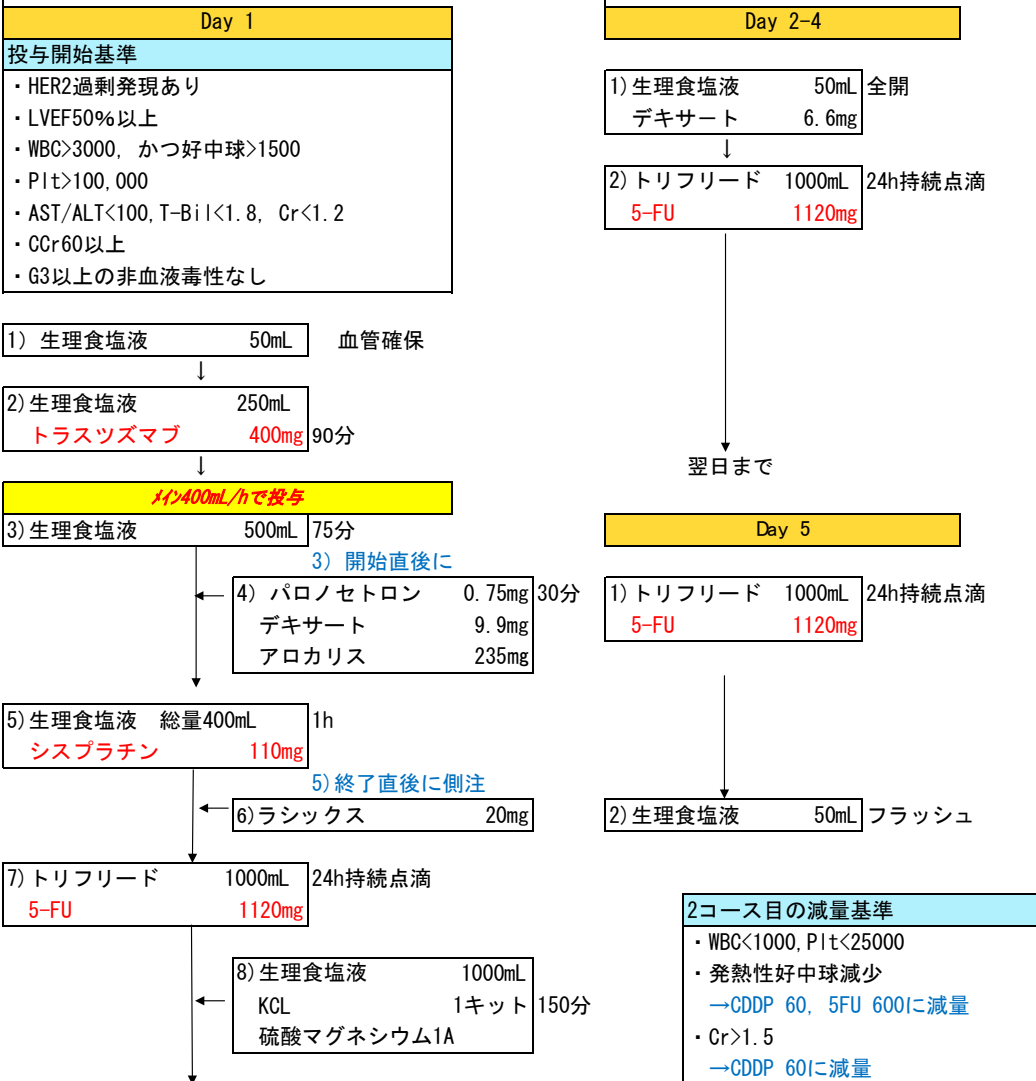
高血圧
G3未満 無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始
症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧薬継続
コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg
更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3 無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続
2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止
2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

化学療法計画書

治療法名	トラスツズマブ+FP800/80		
コース数	1	コース目	初回
腫瘍種	胃がん		
氏名		♂	年齢
患者ID	生年月日		
部署	主治医		

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓											↓			
5-FU	800 mg/m ²	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓								↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓	↓↓↓
シスプラチン	80 mg/m ²	↓											↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓											↓			
デキサート	9.9mg	↓											↓			
デキサート	6.6mg		↓↓↓										↓↓↓			
アロカリス	235mg		↓										↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓	↓↓↓										↓↓↓	↓↓↓		
治療開始日																
150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40	m ²	コース								
eGFR	79	mL/min	eGFR/BSA	64	mL/min											



infusion reactionに注意 (トラスツズマブ)
心機能モニタリング12週毎
1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談
オランザピン5mgはday 1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)

(毎日1日1回体重測定)

化学療法計画書

治療法名	トラスツズマブ+FP800/80		
コース数		コース目	2回目以降
腫瘍種	胃がん		
氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓											↓			
5-FU	800 mg/m2	↓	↓	↓	↓	↓							↓	↓	↓	↓
シスプラチン	80 mg/m2	↓											↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓											↓			
デキサート	9.9mg	↓											↓			
デキサート	6.6mg		↓	↓	↓								↓	↓	↓	
アロカリス	235mg	↓											↓			
オランザピン	5mg	↓	↓	↓	↓								↓	↓	↓	
治療開始日									治療間隔	3週間	予定コース数					コース
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40	m2								
eGFR	79	mL/min	eGFR/BSA	64	mL/min											

Day 1

投与開始基準

- HER2過剰発現あり
- LVEF50%以上
- WBC>3000, かつ好中球>1500
- Plt>100,000
- AST/ALT<100, T-Bil<1.8, Cr<1.2
- CCr60以上
- G3以上の非血液毒性なし

1) 生理食塩液 50mL 血管確保

↓

2) 生理食塩液 250mL
トラスツズマブ 300mg 30分

メイン400mL/hで投与

3) 生理食塩液 500mL 75分

3) 開始直後に

4) パロノセトロン 0.75mg 30分
デキサート 9.9mg
アロカリス 235mg

5) 生理食塩液 総量400mL 1h
シスプラチン 110mg

5) 終了直後に側注

6) ラシックス 20mg

7) トリフリード1000mL 24h持続点滴
5-FU 1120mg

8) 生理食塩液 1000mL 150分
KCL 1キット
硫酸マグネシウム1A

Day 2-4

1) 生理食塩液 50mL 全開
デキサート 6.6mg

↓

2) トリフリード 1000mL 24h持続点滴
5-FU 1120mg

翌日まで

Day 5

1) トリフリード 1000mL 24h持続点滴
5-FU 1120mg

↓

2) 生理食塩液 50mL フラッシュ

2コース目の減量基準

- WBC<1,000, Plt<25,000
- 発熱性好中球減少
→CDDP 60, 5FU 600に減量
- Cr>1.5
→CDDP 60に減量

心機能モニタリング12週毎
1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談
オランザピン5mgはday1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)

(毎日1日1回体重測定)

化学療法計画書

治療法名		トラスツズマブ/カペシタビン			
コース数		コース目			
腫瘍種		胃がん			
患者名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
開始予定日		部署	主治医	科	Dr
治療内容	Day	1 8	15	22	29
	予定日	1/0	1/7	1/14	1/21 1/28
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓ →			
カペシタビン	2000 mg/m ²				
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療間隔	4週毎	予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.40 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	64 mL/min		

Day 1	
<ul style="list-style-type: none"> ・ WBC ≥ 3000 または 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0 ・ AST/ALT ≤ 2.5 × ULN ・ T-Bil < 1.5 × ULN ・ Cr < 1.5 × ULN 	
カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)	

中止基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・ NYHA III/IVに該当する心筋障害が発現した場合 ・ 基準値より低値になった場合 ⇒ トラスツズマブ中止 					
		カペシタビン減量基準			
		カペシタビン投与	1回目	2回目	3回目
G3好中球減少	休薬 (最大14日間) G0-1になるまで	減量不要 or 減量-1	減量不要	減量-1	減量-2
G3血小板減少			減量不要	減量-1	減量-2
G2 (上記外)			減量-1	減量-2	中止
G3 (上記外)			減量-1	減量-2	中止
G4 (上記外)			事象毎に判断		中止

1) 生理食塩液	50mL	血管確保
↓		
2) 生理食塩液	250mL	30分
トラスツズマブ	300mg	
↓		
3) 生理食塩液	50mL	フラッシュ

カペシタビン ピリドキサルはday1の夕から心機能モニタリング12週毎

参考：カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)	
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)	
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)	
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m ² 未満	900mg	600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満		
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg	1200mg
2.11m ² 以上		

化学療法計画書

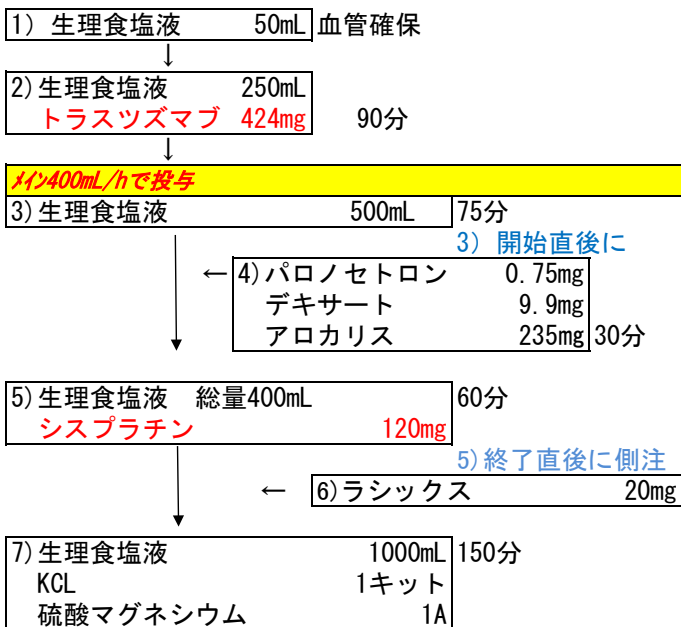
治療法名	XP/トラスツズマブ		
コース数	1	コース目	初回
腫瘍種	胃がん		
氏名		性別	♂
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科
			Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓											↓			
シスプラチン	80 mg/m ²	↓											↓			
カペシタビン	1000 mg/m ²															
パロノセトロン	0.75mg	↓											↓			
デキサート	9.9mg	↓											↓			
アロカリス	235mg	↓											↓			
デカドロン	8mg		↓	↓	↓								↓	↓	↓	
オランザピン	5mg		↓	↓	↓								↓	↓	↓	
ピリドキサル	60mg															
治療開始日									治療間隔	3週毎	予定コース数		朝/夕食後	コース		
身長	160	cm	体重	53	kg	BSA	1.50	m ²								
eGFR	79	mL/min	eGFR/BSA	68	mL/min											

Day 1

投与開始基準
・ WBC>3000, かつ好中球>1500
・ Plt>100,000
・ AST/ALT<100, T-Bil<1.8, Cr<1.2
CDDPはCCr 60未満では減量考慮)
カペシタビン
(CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)
・ G3以上の非血液毒性なし
・ HER2過剰発現あり
・ LVEF50%以上



参考：カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)	
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)	
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)	
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m ² 未満	900mg	600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満		
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg	1200mg
2.11m ² 以上		

infusion reactionに注意 (トラスツズマブ)
 心機能モニタリング12週毎
 1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談
 カペシタビン、ピリドキサルはday 1の夕から
 オランザピン5mgはday 1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)
 day1からの飲水指導

デカドロンはday 2の朝から

化学療法計画書

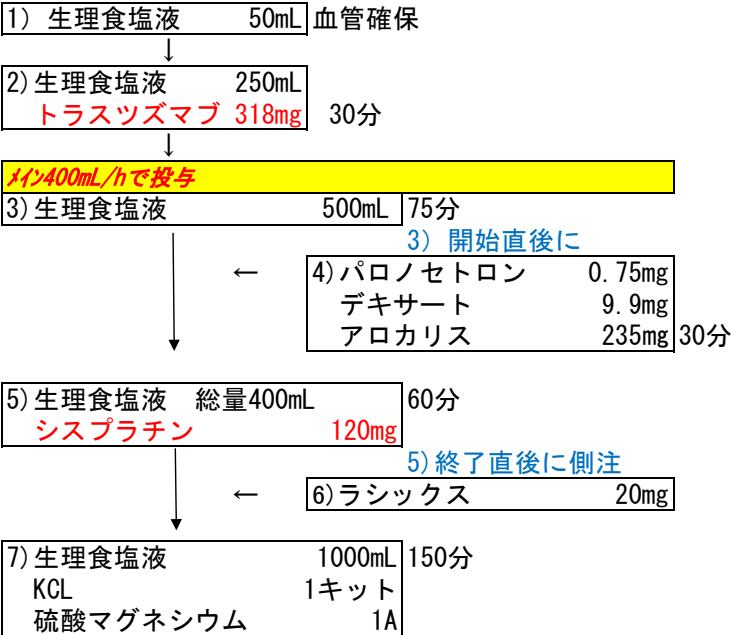
治療法名	XP/トラスツズマブ		
コース数	1	コース目	2回目以降
腫瘍種	胃がん		
氏名		性別	♂
患者ID		生年月日	
部署		主治医	
		科	Dr

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓											↓			
シスプラチン	80 mg/m2	↓											↓			
カペシタビン	1000 mg/m2	→											→			
パロノセトロン	0.75mg	↓											↓			
デキサート	9.9mg	↓											↓			
アロカリス	235mg	↓											↓			
デカドロン	8mg		↓↓↓										↓↓↓			
オランザピン	5mg		↓↓↓										↓↓↓			
ピリドキサル	60mg		↓↓↓										↓↓↓			
													(朝・夕食後)			
治療開始日																
身長	160 cm	体重	53 kg	BSA	1.50 m2	治療間隔	3週毎	予定コース数	コース							
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	68 mL/min													

Day 1

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> WBC>3,000, かつ好中球>1,500 Plt>100,000 AST/ALT<100, T-Bil<1.8, Cr<1.2 <p>CDDPはCCr 60未満では減量考慮) カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量) ・G3以上の非血液毒性なし</p>



	カペシタビン投与	カペシタビン減量基準		
		1回目	2回目	3回目
G3好中球減少 G3血小板減少	休薬 (最大14日間) G0-1になるまで	減量不要	減量-1	減量-2
G2 (上記外)		減量不要 or減量-1	減量-1	減量-2
G3 (上記外)		減量-1	減量-2	中止
G4 (上記外)		事象毎に判断		中止

参考: カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m2未満	1200mg (4錠)	
1.36m2~1.66m2未満	1500mg (5錠)	
1.66m2~1.96m2未満	1800mg (6錠)	
1.96m2以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m2未満	900mg	600mg
1.41m2~1.51m2未満	1200mg	900mg
1.51m2~1.81m2未満	1500mg	
1.81m2~2.11m2未満		1500mg
2.11m2以上	1200mg	

心機能モニタリング12週毎

1kg以上増えたとき医師に報告。利尿剤の相談
カペシタビン、ピリドキサルはday 1の夕から
オランザピン5mgはday 1の夕から (糖尿病の患者はオランザピン禁忌)
day1からの飲水指導

デカドロンはday 2の朝から

化学療法計画書

治療法名	MTX+5FU			
コース数		コース目		
腫瘍種	胃がん			
患者名		♂	年齢	
患者ID	生年月日			
部署		主治医	科	

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
メソトレキセート	100 mg/m ²	↓							↓		↓		↓		↓	
5FU	600 mg/m ²	↓							↓		↓		↓		↓	
ロイコボリン	15mgx3	↓	↓						↓		↓		↓		↓	
ダイアモックス	250mg	↓							↓		↓		↓		↓	
治療開始日					治療間隔			4週毎	予定コース数			コース				
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.40	m ²								
eGFR	79	mL/min	eGFR/BSA	64												

Day 1、8、15、22

投与可否の基準

- ・ WBC>3,000, かつ好中球>2,000
- ・ Plt>100,000
- ・ 下痢なし
- ・ PS 0-2

1) ソリタT3 500mL 3h
メイロン 40mL

2) 生理食塩液 20mL 1)を開始後
ダイアモックス 250mg 直ちに側注

3) 生理食塩液 50mL 2)に続いて
メソトレキセート 140mg 全開で

4) 生理食塩液 50mL 全開で
5FU 840mg

5) 生理食塩液 50mL

毎週投与翌日から翌々日

ロイコボリン 5A(15mg) 静注

ロイコボリン 3錠(15mg) 経口

メソトレキセートの開始24時間後から6時間ごとに計5回

追加指示 (主治医に確認)

MTX血中濃度測定

MTX投与24時間後にヘパ血5mL採血

1x10⁻⁶mol/L未満を確認

それ以上のときは48時間後に再検

再検でも1x10⁻⁶mol/L以上のとき

ロイコボリン 15mg 静注または経口

メイロン 2A+生食100mL点滴

利尿剤投与

Day 1の尿量1000mL以下のとき、

ダイアモックス 500mg+生食20mL静注

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	mFOLFOX6+ビロイ		
コース数	1	コース目	
腫瘍種	胃がん (GLDN18.2陽性)		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr
開始予定日			
治療内容	Day 1	8	15
予定日	1/0	/	/
ビロイ	800 mg/m ²	↓	
レボホリナート	200 mg/m ²	↓	
5-FU	400 mg/m ²	↓	
5-FU	2400 mg/m ²	↓	
エルプラット	85 mg/m ²	↓	
デキサート	9.9mg	↓	
ポララミン	1A	↓	
アセリオ	400mg	↓	
ファモチジン	1A	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
アロカリス	235mg	↓	
オランザピン	5mg	↓↓↓↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日	年 月 日	治療 間隔	2週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/min
BSA			1.4 m ²

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1-2

1) アセリオ 400mg ポララミン 1A デキサート 9.9mg ファモチジン 1A	15分	投与開始基準 HER2陰性 1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上 3. Hb \geq 9 4. PS: 0-1 5. ALB \geq 2.5 6. T-Bil \leq ULN \times 1.5 (肝転移 \leq ULN \times 3.0) 7. AST/ALT \leq ULN \times 2.5 (肝転移 \leq ULN \times 5) 8. CCr \leq 30 9. PT/INR及びPPT \leq ULN \times 1.5
↓		
2) パロノセトロン 0.75mg アロカリス 235mg	30分	
↓		
3) 生理食塩液 50mL	10分	
↓		
4) 生理食塩液 500mL ビロイ 1120mg	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) \div 2 (mg/mL) 投与速度: 75mL/hで1時間 \rightarrow 100mL/hで1時間 \rightarrow 150mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了 悪心/嘔吐, インフュージョンリアクション生じた時は 主治医と相談	
↓		
5) 生理食塩液 50mL	10分	
↓		
6) 5%ブドウ糖 250mL エルプラット 120mg	2h	エルプラット減量基準 1. 好中球500未満 2. 血小板5万未満 3. G3以上の有害事象 \Rightarrow エルプラット100mg/m ² に減量 (2回目発現時; 85mg/m ² に減量)
6) 5%ブドウ糖 500mL レボホリナート 1120mg	2h	
↓		
7) 生理食塩液 50mL 5-FU 560mg	15分	エルプラットとレボホリナート 終了後につなぐ
↓		
8) 生理食塩液 140mL 5-FU 3360mg	46h持続 (トレフューザー使用)	

オランザピンはday0の夕方から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	mFOLFOX6+ピロイ		
コース数		コース目 (2回目以降)	
腫瘍種	胃がん (GLDN18.2陽性)		
患者氏名		♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日	年 月 日
	部署	主治医	科 Dr
治療内容	Day 1	8	15
	予定日	1/0	/
ピロイ	400 mg/m ²	↓	
レボホリナート	200 mg/m ²	↓	
5-FU	400 mg/m ²	↓	
5-FU	2400 mg/m ²	↓	
エルプラット	85 mg/m ²	↓	
デキサート	9.9mg	↓	
ポラミン	1A	↓	
アセリオ	400mg	↓	
ファモチジン	1A	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
アロカリス	235mg	↓	
オランザピン	5mg	↓↓↓↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日	年 月 日	治療 間隔	2週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/min
Day0			

夕方にオランザピン5mg内服

Day1-2		投与開始基準
1) アセリオ	400mg	HER2陰性
ポラミン	1 A	1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上
デキサート	9.9mg	3. Hb \geq 9 4. PS : 0-1
ファモチジン	1 A	5. ALB \geq 2.5 6. T-Bil \leq ULN \times 1.5 (肝転移 \leq ULN \times 3.0)
	15分	7. AST/ALT \leq ULN \times 2.5 (肝転移 \leq ULN \times 5) 8. CCr \leq 30
↓		9. PT/INR及びPPT \leq ULN \times 1.5
2) パロノセトロン	0.75mg	
アロカリス	235mg	
	30分	

3) 生理食塩液	50mL	10分	エルプラット減量基準
↓			1. 好中球500未満
4) 生理食塩液	250mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) \div 2 (mg/mL)	2. 血小板5万未満
ピロイ	560mg	投与速度 : 100mL/hで1時間 \rightarrow 150mL/hで1時間	3. G3以上の有害事象
↓		\rightarrow 200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了	\Rightarrow エルプラット100mg/m ² に減量
↓		悪心・嘔吐, インフュージョンリアクション生じた時は主治医と相談	(2回目発現時 ; 85mg/m ² に減量)
↓			
5) 生理食塩液	50mL	10分	
↓			
6) 5%ブドウ糖	250mL	エルプラットとレボホリナート 終了後につなぐ	
エルプラット	120mg	2h	
6) 5%ブドウ糖	500mL		
レボホリナート	560mg	2h	
↓			
7) 生理食塩液	50mL	5-FU	560mg
	15分		
↓			
8) 生理食塩液	140mL	5-FU	3360mg
	46h持続 (トレフューザー使用)		

オランザピンはday0の夕から
デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名		sLV5FU2+ビロイ			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃がん (GLDN18.2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日	年	月	日
部署		主治医	科 Dr		
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	
	予定日	1/0	/	/	
ビロイ	400 mg/m ²	↓			
レボホリナート	200 mg/m ²	↓			
5-FU	400 mg/m ²	↓			
5-FU	2400 mg/m ²	↓			
デキサート	9.9mg	↓			
ポララミン	1A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1A	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日	年	月	日	治療 間隔	2週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/m ² n		
Day0					

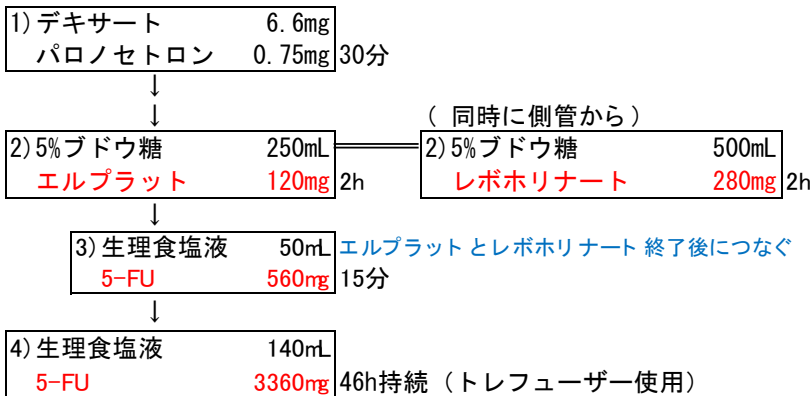
夕方にオランザピン5mg内服

Day1-2		投与開始基準	
1) アセリオ 400mg ポララミン 1A デキサート 9.9mg ファモチジン 1A 15分		HER2陰性 1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上 3. Hb \geq 9 4. PS: 0-1 5. ALB \geq 2.5 6. T-Bil \leq ULN \times 1.5 (肝転移 \leq ULN \times 3.0) 7. AST/ALT \leq ULN \times 2.5 (肝転移 \leq ULN \times 5) 8. CCr \leq 30 9. PT/INR及びPPT \leq ULN \times 1.5	
↓			
2) パロノセトロン 0.75mg アロカリス 235mg 30分			
↓			
3) 生理食塩液 50mL 10分			
↓			
4) 生理食塩液 250mL ビロイ 560mg		総投与量 (mL) = 投与量 (mg) \div 2 (mg/mL) 投与速度: 100mL/hで1時間 \rightarrow 150mL/hで1時間 \rightarrow 200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了 悪心/嘔吐, インフュージョンリアクション生じた時は 主治医と相談	
↓			
5) 生理食塩液 50mL 10分			
↓			
6) 5%ブドウ糖 500mL レボホリナート 280mg 2h			
↓			
7) 生理食塩液 50mL 5-FU 560mg 15分			
↓			
8) 生理食塩液 140mL 5-FU 3360mg 46h持続 (トレフューザー使用)			
オランザピンはday0の夕方から デカドロンはday2の朝から			

化学療法計画書

治療法名	mFOLFOX6		
コース数		コース目	
腫瘍種	大腸がん/胃がん		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	年 月 日
部署		主治医	科 Dr
開始予定日			
治療内容	Day 1	8	15
	予定日	1/0	/
レボホリナート	200 mg/m ²	↓	
5-FU	400 mg/m ²	↓	
5-FU	2400 mg/m ²	↓	
エルプラット	85 mg/m ²	↓	
デキサート	6.6mg	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日	年 月 日	治療 間隔	2週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/m ²

Day1-2



投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr; 1.2未満

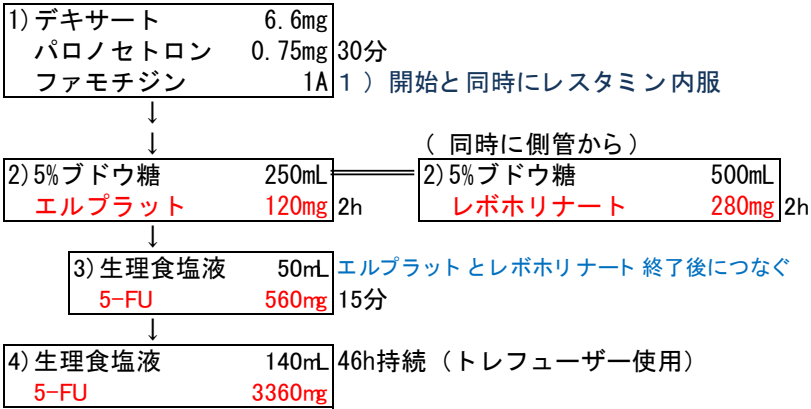
減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
5-FUを20%減量
エルプラット65/m ² に減量

デカドロンはday2の朝から

化学療法計画書

治療法名	mFOLFOX6 (アレルギー)				
コース数		コース目			
腫瘍種	大腸がん/胃がん				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日	年	月	日
部署		主治医	科 Dr		
開始予定日					
治療内容	Day 1	8	15		
予定日	1/0	/	/		
レボホリナート	200 mg/m ²	↓			
5-FU	400 mg/m ²	↓			
5-FU	2400 mg/m ²	↓			
エルプラット	85 mg/m ²	↓			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
レスタミン	5錠	↓			
ファモチジン	1A	↓			
治療開始日	年	月	日	治療 間隔	2週毎
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.4 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	49 mL/m ² n		

Day1-2



投与開始基準

- 好中球1500以上
- 血小板7.5万以上
- AST/ALT < 2.5 × ULN
- T-Bil < 1.5 × ULN
- Cr: 1.2未満

減量基準

- 好中球 500未満
- 血小板5万未満
5-FUを20%減量
エルプラット65/m²に減量

* デカドロン錠はday2の朝から内服